

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393300088		
法人名	社会福祉法人 和敬会		
事業所名	グループホーム なごみの郷 あやめ		
所在地	愛知県蒲郡市柏原町加治替戸3番地1		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和3年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyosyoCd=2393300088-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で自由に外出できず、ご家族とも会えずストレスが溜まる中、少しでも解消できるよう散歩を多く取り入れる他、毎月行うおやつレクの充実や、食べたい物をお聞きし食事レクに取り入れたり、少しでも「嬉しい」「楽しい」と思って頂く様利用者との毎日の関わりを大切にしています。

日常的なケアにおいては、ADLの低下や認知症上進行防止のため毎日行う体操や頭を使ったレクリエーションの他に、水分を1日1500mlを目指し提供しています。また、残存機能を活かして、たたみ物や床掃除等の軽作業を依頼し役割を持つことで生きがいを感じて頂けるよう支援しています。

今年度のGHでの目標である「認知症を知る」をテーマに毎月行う会議の中で認知症の知識を高め、より良い支援や対応力を磨くよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で対面会話が難しいため、感染症対策の一環としてWebを使った家族面会を行い、職員ミーティングや研修もWebを活用している。買い物や外食等の外出は自粛中であるが、利用者が外気に触れる機会が減らないようにしている。近隣への散歩や神社のお参り、花壇の手入れなどを行い、利用者自ら作る手巻き寿司レクリエーション活動などにも工夫を凝らしている。利用者参加の感染予防活動にも取り組み、共有空間の手すり拭き等を運動を兼ねて行っている。

開設当初から勤務する職員が多く、職員間のコミュニケーションが取れている。家族との関係も良好である。職場研修や資格試験へのバックアップも手厚く、職員の資質の向上やモチベーションアップに繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「おだやかに生きるを支えたい」の理念を各ユニットのスタッフルームに提示し意識付けができるようにしている。今年度のキックオフミーティングはコロナ過によりweb配信で「認知症を知る」を目標に取り組んでいる。	法人理念の共有は、入職時の研修や年度初めの全体ミーティングで行っており、毎年度メインテーマが掲げられている。法人理念を基にホームの目標を設定し、職員間で足並みを揃える取組みをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過により以前のように地域との交流はないが、施設周辺の散歩の際は近所の方と挨拶等、会話を楽しまれる場面があった。	散歩中に近所の方と挨拶を交わしたり、医療機関受診時に知人と話をするなど、可能な範囲で地域との交流を継続している。コロナ禍で中止している認知症カフェの再開が望まれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は地域の方に認知症の理解を向けて活かすことはなかったが、実習生に向けて活かすことはできた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過により運営推進会議の実施されなかったが、情報の共有により地域住民代表、利用者代表、行政代表の方々に参加頂き運営状況の報告、利用者の報告を行い意見交換を行っている。	書面での開催となっており、民生委員等の近隣メンバーには資料を持参し、情報交換を行っている。ホームの状況を開設当初から知っている方の参加が多く、運営推進会議は貴重な意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から市から密な連携がとれている。コロナウイルスに関する対応についても、必要物資の調整のやり取りなど、密な連携により情報共有が行われる事で、市の協力により事業所運営に役立っている。	感染症対策について市に相談することがあり、不明点があれば問い合わせしている。地域包括支援センターとは頻りに交流する機会があり、法人全体で連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2度身体拘束に関する研修を行っている他、3ヶ月に1度各ユニットで身体拘束に対しての会議を設け身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修は全職員が受講している。支援の中で不明な点があれば、職員同士で話をして身体拘束をしないケアを実践している。ホーム内でも会議等で身体拘束を議題に挙げ、意識して取り組むよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特にスピーチロックに対して事業所内では不適切な対応や声掛けがみられた場合、注意しあい意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は日常生活自立支援事業や青年後見制度を活用している対象者は居ないが知識を学んでいく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時に説明を行っている。不安や疑問点があればその都度説明を行い理解や納得をして頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際や、電話、メールを使用し気楽に意見や要望を聞くように努めている。また、ご意見受付表や苦情受付簿も置いている。	家族と直接話をする機会は減ったが、管理者だけでなく職員も必要なことをすぐに家族に連絡し、家族からの要望にも応えている。会えない状況下でも、家族からの意見に耳を傾ける良好な関係が続いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議を開催し各入所者の状況の把握、処遇面、業務改善、職員の意見を聞く機会を設けている他、普段より職員や利用者の声を聴くよう努めている。	ユニット会議にはほとんどの職員が出席し、働きやすい職場を目指している。出された改善提案には、「まず行動してみよう」の精神で取り組んでいる。管理者は職員の意見を尊重し、適切にサポートしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間や労働時間については、管理者と事務で管理し把握している。給与規程等を定め、これに沿った算定も行っている。職員からの希望休等の希望に沿えるように調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規職員に対しては、指導を行い、研修を実施している。施設内部では、介護力向上プロジェクトを発足させ、入居者の自立支援実現に向け介護職員としての専門性向上にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に参加している。今後、イベントや勉強会に参加し同業者との交流を図り、情報交換等でサービス向上に繋げていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前や入所後その都度本人による訴えを傾聴し安心されるサービスの提供、要望等に沿った支援と関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や不安に感じている事、要望に耳を傾け、安心して頂ける対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、特養等必要なサービスの検討も含めた対応をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	たたみ物や掃除等の軽作業を依頼してできる事を継続し行って頂くことで、役割をもち生きがいに感じて頂く様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での様子や体調等の変化があった時には都度家族に連絡している。また、毎月写真をのせて月ごとの様子を記入した通信を送っている。家族と情報を共有し信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で外出ができていなく、馴染みの場所へ行けていないが、同施設内に居る親類や知人のユニットへzoomを使用し面会を行っている。携帯電話所持の方は、家族や知人と話をされ楽しまれている。	馴染みの人との交流は積極的にはできていないが、家族との墓参り、新聞の購読、趣味の俳句を楽しむなど、それぞれに継続していることがある。携帯電話で知人との会話を楽しむ利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアの共同生活の場での席位置を考慮している。利用者の間に職員が入り利用者同士関わりが持て、孤立しないように職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してからも、入院先にお見舞いに行ったり、家族に本人の様子を伺い、話をしている。相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や好みを把握し安心して暮らせる様努めているが、集団生活の中で全ての希望、意向を実施はできていない。できる限りの中で職員同士共有し検討から実施に繋げている。	日常の関わりの中で利用者の思いを把握し、利用者同士の会話から出た本音を拾い、職員間で共有している。利用者の思いの実現に向け、担当の職員に情報を集約して実践につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談時に本人や家族から話を聞き、入所後も本人、家族等から話を聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は、経過記録と状況や様子を申し送り等で確認し、その日その時の心身状態は直接挨拶や会話から把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向、家族の意向に合わせ、より良く暮らせるよう配慮し職員間で話し合っている。毎月、計画作成者と担当者、職員でユニット会議を行っている。	介護計画は、利用者本人と家族の意向を確認し、職員・計画作成担当者と話し合って作成している。利用者の意向の内容によっては、法人内の管理栄養士等の専門職から助言をもらうこともある。	利用者が自分自身の役割として取り組んでいることなどを介護計画に盛り込み、その達成度を利用者や職員が共有できるような内容にしていくことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チームケアの実践に努めている。常に情報は共有し日々変化する状況を把握しながら実践し、必要時介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に応じ配慮し柔軟な支援、サービスを行い、家族にも協力をして頂き常に最善の方法を探し支援が行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ過で外出がせず、地域のボランティアもなく、最近では地域での交流場面がなく楽しめれていない現状である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかり医があるが、以前からのかかり医で希望があれば施設のかかり医以外の場所での受診に対応している。希望があれば歯科往診も行っている。	かかりつけ医は利用者が自由に選択することができ、外来受診は原則家族対応となっている。訪問診療の対応はなく、体調変化があった時にはすぐに家族に連絡し、緊急時には職員が受診対応することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH専従の看護師はいませんが、同施設内に併設している看護師に相談し様子を見てもらったり、アドバイスや知識を教えてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には早期に退院できるように病院からの情報をお聞きし家族、病院と連携をとっている。尚、コロナ過の影響でお見舞いに行けていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に救急対応、終末期の確認をとっている。本人の状態の変化が見られた時はその都度早期にご家族と話し合い事業所で出来ることを支援している。	入居契約時に、重度化した際にホームとしてできること、できないことを説明して理解を得ている。重度化した時には、家族や主治医との話し合いの下、利用者にとってより良い暮らしをするための支援と方針を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の内部研修ができておらず、新規職員にはマニュアルの把握と説明だけなので、今後は定期的実践力を身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、そのうち1回は消防署の指導を受け施設全体で避難訓練を行っている。夜間を想定した図面上での訓練も1回行っている。	火災想定中心の避難訓練を行っている。ハザードマップの警戒区域外であるが、BCP(事業継続計画)を策定し、災害に備えている。避難先での見守り役を地域住民に依頼し、地域との協力体制も整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し失礼のないような声掛けを心掛け、分かりやすい言葉や表現を使用したり、適度な距離感を持つようにしている。居室やトイレに入る際にはノックをし、利用者がフロア等に居る時には、訪室させて頂くよう声掛けを行っている。	尊厳やプライバシーに関しては研修テーマで取り上げ、定期的に職員への意識づけを行っている。トイレ誘導・居室入室時・入浴時などは、利用者を敬う気持ちで支援し、声掛けにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段より気楽に希望等言えるような環境や関係を作っている。また、会話の中から希望等発見するように努めている。話をする機会を待つ頂くこともあるが、時間を作り傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	同一の流れを優先するではなく、個々の生活ペースをできる限り優先している。また、その日の気分や状況で入浴や食事の時間等変更希望があれば希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備の際に、利用者と一緒に好みの服を選んだり、毎月の理容でパーマや髪を染め楽しまれている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に口腔ケアを行う他、毎食時メニューを利用者に発表して頂き内容をわかる様にしている。おやつレクや食事レクで利用者が中心に作り込まれている。	メニューは決まっているが、個々の細かな調整は法人内の管理栄養士と相談して対応している。利用者のリクエストを食事レクリエーション等で取り入れ、味わう楽しみだけでなく作ることも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量の記録を行い水分は1日1500mℓを目標に何種類かの飲み物を用意し摂取して頂いている。継続し摂取量の少ない方は栄養士に相談し食事形態や栄養補助食品の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診の先生にアドバイスをもらい、毎食後、口腔ケアを促し、一人ひとりの状態に合わせた歯ブラシや歯間ブラシ、口腔ジェル等を使用し介助を行っている。夕食後は義歯のある方は洗浄剤を使用し預かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者全員「便座に座り排泄する」を実現している。利用者によりパットの大きさを変え、その人に合ったパット等を使用し自立に向けた支援を行っている。	トイレ誘導の声掛けのタイミングは個々の状況に合わせており、同性介助にも配慮している。適切な排泄用品を使うよう利用者の状態を職員で話し合い、利用者が不快にならないよう、排泄の自立に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	人により定期的の下剤等服用しているが、自然排便ができるように、水分量、体操や散歩等促し取り組んでいる。起床時にはイオンサポートを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に曜日と時間は決まっているが、入浴される時間や、その時の気分や体調で臨機応変に無理なく入浴して頂く。また、好みに合わせ入浴剤を使用している。	週2回の入浴を基本としているが、拒否がある時には無理強いせず、臨機応変に対応している。湯船にゆったりとつかりながら、職員と会話を楽しむこともある。身体機能に合わせ、座浴を使うことも可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中適度な運動を促し、生活のリズムを作るよう支援している。昼夜逆転に気を付け日中も居室で休んで頂けるよう希望に沿った支援を行い、快適な空調の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は職員が常に把握できるように個人ファイル保管してある。服薬は飲み込むまで確認と見守りを行い実施している。症状の変化があれば直ぐに報告し申し送り共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で一人ひとりができる役割の目標を設定し毎日の日課となっている。また、毎日行うレクリエーションの他に、趣味での読書や塗り絵等も気分転換も兼ね支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過で自由に外出ができていないが、天気の良い日は施設周辺や近くの神社へ散歩へ出かけている。	天気が良い日には近隣の散歩を楽しみ、花が好きな利用者は敷地内の花壇の手入れをしている。遠出の外出ができない中でも、気分転換を兼ねて外気に触れる機会を設けている。買い物等で外出できる日を、利用者も職員も待ち望んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、現金は利用者に渡していないが、希望があれば自己にて管理されている方もいる。現在はコロナ過で買い物へ行けない為、欲しいものをお聞きし職員にて買い物をして提供している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方は自由にやり取りをされてみえる。家族と連絡がしたい等の希望があれば電話で話したり、現在はweb面会を活用し会話を楽しまれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部は日頃から清掃し気持ちよく過ごして頂くよう心掛けている。毎月季節に合った壁面や飾りを利用者で作成し、視覚から季節を感じられるよう工夫をしている。	新型コロナウイルス感染症感染予防策として、今年度は視察なし。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれないよう気の合う方との席の配慮を行い談笑して頂ける空間作りをしている。また、離れた場所のソファに座り独りで落ち着ける場所も設置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた家具や布団、仏壇や食器等、使い慣れた物を使用し自宅の雰囲気にな近づけるよう努めている。	新型コロナウイルス感染症感染予防策として、今年度は視察なし。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部の壁浴いには持ちやすい高さに手すりが設置しており、不要な物は置かないよう努めている。また、バリアフリーになっているのでシルバーカーや杖でも動きやすい環境になっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393300088		
法人名	社会福祉法人 和敬会		
事業所名	グループホーム なごみの郷 さくら		
所在地	愛知県蒲郡市柏原町加治替戸3番地1		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和3年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyvoCd=2393300088-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ過で自由に外出できず、ご家族とも会えずストレスが溜まる中、少しでも解消できるよう散歩を多く取り入れる他、毎月行うおやつレクの充実や、食べたい物をお聞きし食事レクに取り入れたり、少しでも「嬉しい」「楽しい」と思って頂く様利用者との毎日の関わりを大切にしています。
 日常的なケアにおいては、ADLの低下や認知症上進行防止のため毎日行う体操や頭を使ったレクリエーションの他に、水分を1日1500mlを目指し提供しています。また、残存機能を活かして、たたみ物や床掃除等の軽作業を依頼し役割を持つことで生きがいを感じて頂けるよう支援しています。
 今年度のGHでの目標である「認知症を知る」をテーマに毎月行う会議の中で認知症の知識を高め、より良い支援や対応力を磨くよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「おだやかに生きるを支えたい」の理念を各ユニットのスタッフルームに提示し意識付けができるようにしている。今年度のキックオフミーティングはコロナ過によりweb配信で「認知症の知識を高める」を目標に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過により以前のように地域との交流はないが、施設周辺の散歩の際は近所の方と挨拶等、会話を楽しまれる場面があった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は地域の方に認知症の理解を向けて活かすことはなかったが、実習生に向けて活かすことはできた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過により運営推進会議の実施されなかったが、情報の共有により地域住民代表、利用者代表、行政代表の方々に参加頂き運営状況の報告、利用者の報告を行い意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から市から密な連携がとれている。コロナウイルスに関する対応についても、必要物資の調整のやり取りなど、密な連携により情報共有が行われる事で、市の協力により事業所運営に役立っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2度身体拘束に関する研修を行っている 他、3ヶ月に1度各ユニットで身体拘束に対するの会議を設け身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特にスピーチロックに対して事業所内では不適切な対応や声掛けがみられた場合、注意しあい意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は日常生活自立支援事業や青年後見制度を活用している対象者は居ないが知識を学んでいく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時に説明を行っている。不安や疑問点があればその都度説明を行い理解や納得をして頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際や、電話、メールを使用し気楽に意見や要望を聞くように努めている。また、ご意見受付表や苦情受付簿も置いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議を開催し各入所者の状況の把握、処遇面、業務改善、職員の意見を聞く機会を設けている他、普段より職員や利用者の声を聴くよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間や労働時間については、管理者と事務で管理し把握している。給与規程等を定め、これに沿った算定も行っている。職員からの希望休等の希望に沿えるように調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規職員に対しては、指導を行い、研修を実施している。施設内部では、介護力向上プロジェクトを発足させ、入居者の自立支援実現に向け介護職員としての専門性向上にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に参加している。今後、イベントや勉強会に参加し同業者との交流を図り、情報交換等でサービス向上に繋げていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前や入所後その都度本人による訴えを傾聴し安心されるサービスの提供、要望等に沿った支援と関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や不安に感じている事、要望に耳を傾け、安心して頂ける対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、特養等必要なサービスの検討も含めた対応をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	たたみ物や掃除等の軽作業を依頼して頂ける事を継続し行って頂くことで、役割をもち生きがいに感じて頂く様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での様子や体調等の変化があった時には都度家族に連絡している。また、毎月写真をのせて月ごとの様子を記入した通信を送っている。家族と情報を共有し信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で外出ができていなく、馴染みの場所へ行けていないが、同施設内に居る親類や知人のユニットへzoomを使用し面会を行っている。携帯電話所持の方は、家族や知人と話をされ楽しまれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアの共同生活の場での席位置を考慮している。利用者の間に職員が入り利用者同士関わりが持て、孤立しないように職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してからも、入院先にお見舞いに行ったり、家族に本人の様子を伺い、話をしている。相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの訴えや、日常の会話の中から希望を把握し職員同士共有しできる限り叶えられるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前のサービスの利用状況や生活歴に関する記述を参考にす他、本人から話を聞き把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録等の把握の他、職員間での共有、本人の現在の観察を行い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向、家族の意向に合わせ、より良く暮らせるよう配慮し職員間で話し合っている。毎月、計画作成者と担当者、職員でユニット会議を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有できるように介護記録や連絡ノート等を活用するとともに、口頭での伝達に努めている。チームで話し合う場を設け介護計画の見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとり状況が異なるが、それぞれに合わせたサービスの提供ができる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ過で外出がせず、地域のボランティアもなく、最近では地域での交流場面がなく楽しめれていない現状である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかり医があるが、以前からのかかり医で希望があれば施設のかかり医以外の場所での受診に対応している。希望があれば歯科往診も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH専従の看護師はいませんが、同施設内に併設している看護師に相談し様子を見てもらったり、アドバイスや知識を教えてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には早期に退院できるように病院からの情報をお聞きし家族、病院と連携をとっている。尚、コロナ過の影響でお見舞いに行けていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に救急対応、終末期の確認をとっている。本人の状態の変化が見られた時はその都度早期にご家族と話し合い事業所で出来ることを支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の内部研修ができておらず、新規職員にはマニュアルの把握と説明だけなので、今後は定期的な実践力を身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、そのうち1回は消防署の指導を受け施設全体で避難訓練を行っている。夜間を想定した図面上での訓練も1回行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格、認知症状を把握しその方に合わせた丁寧な声掛け対応を行い、介助が必要な場合も羞恥心等配慮し対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に会話の中から本人の希望を傾聴し、意思に沿った介護を行う様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合にならず、利用者の残存機能等を大切に本人のペースに合わせた介護を実施している。また、できる限り希望に沿った生活の時間に合わせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備の際に、利用者と一緒に好みの服を選んだり、毎月の理容でパーマや髪を染め楽しまれている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	危険のないよう計らい、盛り付けやおぼん準備等できる事を依頼し食事の準備を行っている。また、おやつレクや食事レクにも協力しながら楽しまれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事形態や水分、主食等の量を調整し安全に摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診の先生にアドバイスをもらい、毎食後、口腔ケアを促し、一人ひとりの状態に合わせた歯ブラシや歯間ブラシ、口腔ジェル等を使用し介助を行っている。夕食後は義歯のある方は洗浄剤を使用し預かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者全員「便座に座り排泄する」を実現している。利用者によりパットの大きさを変え、その人に合ったパット等を使用し自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	人により定期的の下剤等服用しているが、自然排便ができるように、水分量、体操や散歩等促し取り組んでいる。起床時にはイオンサポートを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好みに合わせた入浴剤の使用や本人の気分や希望等あれば日時の変更を行い希望に沿えるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠をしっかりとして頂けるよう室温の調整や、必要に応じ日中の仮眠、適度な運動を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は職員が常に把握できるように個人ファイル保管してある。服薬は飲み込むまで確認と見守りを行い実施している。症状の変化があれば直ぐに報告し申し送り共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭きや食器拭き等の依頼を行い役割をもって頂く他、好きなゲームやパズル等を提供し楽しんで頂く様努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過で自由に外出ができていないが、天気の良い日は施設周辺や近くの神社へ散歩へ出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、現金は利用者に渡していないが、希望があれば自己にて管理されている方もいる。現在はコロナ過で買い物へ行けない為、欲しいものをお聞きし職員にて買い物をして提供している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方は自由にやり取りをされてみえる。家族と連絡がしたい等の希望があれば電話で話したり、現在はweb面会を活用し会話を楽しまれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるような壁飾りの制作をしたり、日々の清掃により心地よく過ごして頂けるよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを置き、ゆったりとテレビを観てくつろいで頂けるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた家具や布団、仏壇や食器等、使い慣れた物を使用し自宅の雰囲気近づけるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には表示や写真を貼り分かりやすくしており、環境整備を意識し安全に生活できるよう努めている。		